
涙の痕

真奈

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙の痕

【Nコード】

N4354D

【作者名】

真奈

【あらすじ】

あなたが少しでも私を好きでいてくれたならそれで、それで良かったんです。

Opening

きつとこんな恋は幸せになれないね

それでもあなたの言ってくれた言葉を信じるから

バカみたいに平気で笑ってるから

どうか気づかないで愛しい人

私があなただを愛していたことを

瑛太

あたしが入学した高校はとくに頭が良いわけでもなく
何か特徴があるわけでもなく有名な母校とか
そんなんでもなくて簡単に言ったら普通のほんとに普通の学校。
誇れるトコなんかないけどこの高校に入った理由も
お姉ちゃんが居たからだけど、ここが大好きだった。
そして私はここで、人生で何よりも大切な思い出をつくることになる。

神崎琴音16歳。ピンチです。

「やばい、やばいよ……。」

入学式に迷うなんてベタな展開だけどまさかほんとに迷うなんて
ここどこ……？ 辺りには見覚えのない風景が並んでる。

ちよっとはりきって早めに出たのがまだ良かったけど

このままじゃ完全に遅刻。

おねえちゃんについてきて何で迷ったんだろう。

「もうやだっ！」

へなへなとその場に座り込んだあたしの周りに無情にも桜が散る。
溢れてきそうな涙を新品の制服の袖で拭いた。

こんなところで泣いてなんか居られない。

ふと足音が聞こえてきてそれがどんどんあたしに近づいてきて
気づいたら座り込んだあたしの上に誰かの影がおちていた。

ゆっくり顔を上げると男の人が目の前に立ってる。

あたしと同じ学校の制服。

「っあの……。」

私が何か言う前に男の人はあたしの腕をものすごい力でひっぱってたたせてくれた。

頭に乗ってる桜の花びらもポンポンと払い落としてくれた。そこから何も言わず私の腕をひばって歩いてく。

この人誰・・・？

一分もしないうちに私たちは学校の門の前に立っていた。

お姉ちゃんを見つけて駆け寄っていく。

「あーっ！もーどこいったの!？」

「ごめんっ!!」

手を合わせて謝る。

「心配したんだからっ！どうやってここまで来たの？」

完全にお姉ちゃんに呆れられてる。

「えつとね・・・あ、あの人！あの人がここまで連れてきてくれたの！」

気づいたら遠くに居てちっちゃくなった男の人を指さす。

「あ、瑛太じゃん」

「・・・芸能人の？」

「違うよっ！早瀬瑛太。知らない？」

「しらなーい。お姉ちゃん知り合い？」

「野球部の2年。琴音の一つ先輩だね？」

お姉ちゃんは野球部のマネージャー。3年だから今年で引退だけどあ！お礼言ってない！！ってか何で私のことここまで連れてきてくれたんだろ？

お姉ちゃんの妹だから？ん、でも何で私が妹って分かったんだろ。

ま、いいや。今度会ったら聞いてみよ。

・・・それにしてもちよつと格好良かったかな。

瑛太。初めて会ったときは桜の中だったね。

私、今でもあの時のこと覚えてるよ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4354d/>

涙の痕

2011年1月27日01時49分発行